

にほんやっかだいがく

日本薬科大学

1 講義名・定員など

(1) 開放講義

科目名	担当	曜日	時限	定員	備考
社会・集団と健康 (薬学科3年)	樋口 敏幸	火	2	若干名	1限 9:15~10:45 2限 11:00~12:30 3限 13:30~15:00 4限 15:15~16:45 5限 17:00~18:30
栄養と健康 (薬学科2年)	長部 誠	月	1		
漢方処方学* (薬学科4年)	糸数 七重	水	2		
生薬学 (医療ビジネス薬科学科4年)	山路 誠一	木	1		

後期の講義は9月より開始予定です。

講義は原則対面ですが、一部オンライン講義（オンデマンド配信）となる講義もあります。

*印の講義は10回、それ以外の講義は14~15回を予定しています。

*「栄養と健康」に関しては、高校生物程度の予備知識が必要となります。

☆下記注意事項をご確認の上、お申し込みください。

- | |
|---|
| <p>① 担当教員は都合により変更になることがあります。</p> <p>② 講義で使用する教科書は追ってお知らせしますので、書店等を通じて各自でご購入下さい。</p> |
|---|

詳細の講義日程については授業に先立ち開催する「開放講座履修ガイダンス（9月6日（火）、9月7日（水）9:30~）」にてご案内します。

*時間に関しては変更する場合があります。その際は追って連絡をさせていただきます。

受講案内、講義日程等の詳細については、8月24日（水）前後に申込者全員に文書でお知らせします。

(2) 場所

日本薬科大学
〒362-0806
埼玉県北足立郡伊奈町
小室10281

構内立入制限について

新型コロナウイルス感染予防のため、構内は入構制限がございます。事前に申請及び許可のない場合は入構できませんのでご了承ください。



2 受講料等

(1) 受講料 1科目 (半期) につき10,000円

(2) その他 教科書等の教材は自己負担によりご用意いただきます。

3 受講の申込み

(1) 申込期限 令和4年8月17日(水) (消印有効)

(2) 申込方法

以下の事項をもれなくご記入の上、郵便はがきでお申込みください。

- (1) 住所
- (2) 氏名 ふりがな
- (3) 性別
- (4) 年齢 (令和4年4月1日現在)
- (5) 電話番号
- (6) 受講希望講義・担当教員名 (重複のない限り何科目でも可)

(3) お問い合わせ先

Mail : h-tanaka@nichiyaku.ac.jp

担当：日本薬科大学 地域連携室・開放講義係 田中久枝

電話：048-721-6249 (直通)

FAX：048-721-7305

(4) その他

申し込み後、都合により受講できなくなった場合は、早めにご連絡ください。一旦納入された受講料につきましては返金はできませんので、予めご了承ください。

4 各講義の概要及び担当教員

<p>社会・集団と健康 (樋口 敏幸 教授)</p>	<p>健康と疾病の概念、恒常性維持のための生体防御機構、人間集団の健康状態を把握するための保健統計、疾病の原因と対策を考える疫学、主な感染症とその予防対策、生活習慣病の疫学と予防対策、職業病とその予防のための労働衛生、母子保健、学校保健などについて学び、社会における集団の健康と疾病の現状とその影響要因を理解し、疾病の予防に関する基礎知識を修得する。さらに、大学周辺地域における健康管理や疾病予防・治療への取り組み等の公衆衛生活動を紹介する。</p>
<p>栄養と健康 (長部 誠 講師)</p>	<p>人間が生命を維持するためには食事による栄養素の摂取が必要である。本講義では、各栄養素の役割、消化・吸収・代謝、欠乏症・過剰症、食事摂取基準などを学ぶことにより、健康増進の指導ができるようになるための基礎的知識を修得する。</p> <p>本講義には、高校生物程度の予備知識が必要となります。</p>
<p>漢方処方学 (糸数 七重 講師)</p>	<p>漢方処方学は古典的な観点と現代医学的観点のいずれか、もしくは両方に基づき処方されます。薬剤師として、医師の処方意図を理解したり、また、自ら処方する場合には、両方の考え方を理解しておく必要があります。本講義では、前半では日本薬局方に収載されている頻用処方に関する古典的観点からの解説を、後半では実際に漢方処方が頻用される高齢者医療を題材として、臨床における漢方処方の使用方法の考え方に関する解説を行いません。</p>
<p>生薬学 (山路 誠一 准教授)</p>	<p>生薬学は薬学独自の薬学基礎学問である。この生薬学では医薬品として使われてきた生薬だけでなく漢方薬、化学薬品、健康食品、サプリメントとなる生薬やこれらのドーピングにおける使用上の注意に至るまで等、取扱い方法について学ぶ。</p> <p>本講義では実物を知ることが重視するので、ドーピングに支障のない商品実物や検証方法を用い、知識の修得以外に五感を駆使した生薬鑑別の技能を養うほか、天然物に関する総合的な知識の醸成を図る。</p>